

みんなの 広場

皆さんからのお便りをお待ちしています

〒444-0192 菱池字元林1-1 幸田町役場企画政策課広報広聴G
E-mail:kikakujocho@town.kota.lg.jp ☎62-1111 (内線334)
FAX63-5139

今月の表紙

今月の表紙は、10月16日に町民会館さくらホールで開催された小中学校音楽会です。練習を重ねてきた成果が披露され、すばらしい歌声や音色がホールに響きました。児童・生徒の応募で決定した音楽会のテーマ曲の歌詞も披露されました。



▲別ショットの写真

こゝろの民話

古堤池の山んぼう

芦谷の東の山、ねぎ山のふもとの古堤池は、今ではもうすっかり整備されていて、立派な池になっているけれども、むかしは芦がいっぱい生え、とろんと水がよどんでいて、おそろしいほどの池でした。

「古堤池に遊びに行ってもいかにぞ。山んぼうがいるで。」と、子どもたちはよくいわれたものでした。

山んぼうというのは、2メートル50センチくらいの棒で、山仕事に行くときには必ず持っていくものでした。山から切り出したもや（たきつけにする小枝）を、両はしに2わずつしばって、かつぐ棒のことです。

ある年の秋のことでした。ある芦谷の人が、「もう草がかれた。風呂のたきつけの枯草を刈りに行ってこよう。」と、古堤池に草を刈りに行きました。

サクッサクッと、堤防の枯草を刈っていると、山んぼうのようなぼうが落ちてのりに気がつきました。

「だれだろな。こんなところに山んぼうを忘れていったら、さういいながら、ぼうを拾おうとしたとき、大きな蛇がかま首をもたげ、シューシューと息を吹きかけたではありませんか。」

「出たあ。山んぼうだ。」その人は、持っていったものもほったらかしにして、いちもくさんに家に逃げ帰りました。そうして、ふとんをひっかけ、

「ああ恐ろしい。…山んぼうだ。あの目がわしをにらんどうる…」などといいながら、がたがたふるえていました。

その人は間もなく亡くなられたということです。

みんなの作品展!

平成26年度 小学生読書感想画展からのセレクトです



2年 八幡 晃弘くん



2年 伴 昂樹 さん

皆さんの作品を募集します。応募方法は、はがき裏書きもしくは作品を写真に撮りタイトルと作者名(ペンネーム可)をご記入のうえ、企画政策課広報広聴Gまでお送りください(デジカメ写真の場合はメールで)。

「はば」

川口三太郎

11月16日は健康福祉まつり。今年には三代でウォーキングに挑戦。でも、すべ「だっこ」のおちびちゃんとお留守番のおじいちゃん……

「おえ、はばにせらーと、ぼーもませてやれや」

「おい、仲間外れにしないで、坊やも仲間に入れてやってよ」という意味です。

ある一定の数量で物をそろえようとすると、「半端」がでます。それをこの地方では、「はばが出る」と言います。この「はば」と例文の「はば」意味が違いますが、どちらも同じ「はば」なのでしょう。

「仲間外れ」を「はば」というのは、愛知県でも名古屋を中心に尾張や西三河、岐阜県的美濃といった地域ぐらゐで、豊橋などの東三河や三重県では、「はばけ」と言うそうです。この「はばけ」「音く」が転じたものですが、浜松などの遠州では、「はばせ」と言い、若者の間で全国的に使われている「はば」は、これが転じたものだそうです。ではこの「はば」が「はば」に転じたのでしょうか。そこで「仲間外れ」を何と云ったか、老母に尋ねたところ、なんと「はんば」と返ってきました。「半端」には、「はば」に転じる以前から「仲間外れ」の意味もあったのです。

(文・つるぎ)



青春トークリレー
第260走者

初鹿 史弥 さん

坂崎区在住 20歳 大学生
身長 167cm 血液型 AB型
好きなタイプ 秘密

好きな芸能人など the HIATUS
というバンドの細美武士さん

僕は現在、愛知大学に通っており、心理学を学んでいます。サークルは軽音楽サークルに所属しています。軽音サークルでは、ELLEGARDENというバンドのコピーをしており、ギターボーカルをやっています。今年の11月に愛知大学で愛大祭もあり、軽音サークルもイベントに参加するのでよろしければ見に来てください!

幸田町は自然が多くて、空気もまあまあおいしくて、のんびりできるとても良い町です。夜には満点の星空を満喫することもできます。

これからの幸田町は、自然も大切にしつつ、少しずつ発展してくれると嬉しいです。



はろーキッズ

掲載写真を印刷してプレゼント。
希望者は企画政策課まで。



わんぱくどより

「某日某日」
「菱池保育園」

カイコ日記

「桑の葉っぱを食べようね」

春になると、昨年のカイコの卵から小さな幼虫が産まれます。どんなに小さな幼虫も桑の葉を食べるの、子どもたちは、興味津々で覗き込んで見えています。カイコが大きくなっていく過程を敏感に察知して、「カイコ大きくなったね」「うんちも大きいね」「これが目かな?」などと一言一語、見ているだけでなく、

「すべすべしてねね」「かわいいわね」と、実際に触れながら世話をしてくれます。そんな楽しいカイコの飼育も、保育士には悩みがあります。それは、桑の葉の確保です。散歩で、桑の葉を見つけて採ることもありますが、町内のどこにあるのか、保育士間の情報交換も真剣です。かわいい幼虫に新鮮でおいしい葉っぱをあげたいからです(笑)。堤防沿いなどで、ハサミを持って桑の葉を切っている人がいたら、それは、保育士かもしれない(笑)。出来た繭は、大切に使い回すと工夫。何になるのかな。



ちゅうど 編集者のひゅーじん

▼こんにちは、編集者のKです。月日の流れは速いもので今年もあと2か月となりました。12月号の特集では今年の幸田町の出来事を写真を交えて振り返る予定です。お楽しみに。

さて、季節は秋本番、各地で運動会などのスポーツイベントや演奏会・音楽会などの文化イベントが開催されています。私もスポーツが大好きで、子どもたちが一生懸命走っている姿を見ると胸が熱くなってきます。というところで、今月号の「まちかどフォト」の中でお知らせしていますが、9月20日に幸田中央公園で第9回愛知万博記念メモリアル駅伝の幸田町代表選手選考会が開催され、各部門で代表の座を争う熱い走りが繰り広げられました。中でも、一般男子で代表になった平岩選手の走りは力モシカのように軽快で、躍動感を感じるすばらしいものでした。大会は12月6日に万博記念公園(モリコロパーク)で開催されます。当日はテレビ中継もされると思います。ぜひ会場へ応援してください。選手と一緒に感動を味わうことができるかと思っています。もちろん、私も選手と同行して、幸田町代表選手の雄姿をカメラに収めてきます!我が子の保育園発表会は、ビデオ録画で楽しみたいと思います!(涙)